4. 今後の課題

（１）ほ場適応性の判断

そば、なたねについても水田における戦略作物として位置付けられてはいるものの、湿害に強い作物ではありません。これらの畦立て播種技術についても、大豆や麦類と同様に、土壌タイプや土性だけで小畦立て播種栽培の適応性を判断することが難しいため、幅広く多数のほ場条件・作物条件において、データを収集し解析することが必要です。

技術の普及についてはまだまだこれからであるため、今後も現地のデータをフィードバックさせながら、技術を改良して行く必要があると思われます。

（２）各種ハローへの対応と技術の体系化

そば、なたねあるいは麦類や晩播大豆、今後導入が想定される雑穀などについては、代かきハローのサイズから設計する栽植様式のバリエーション（畦間、条数、条間）が、大豆の一畦一条播きに比べると多くなるため、組み立て等の技術支援がまだまだ必要と思われます。

また、播種作業以外の管理作業など技術の体系化について、今後も検討を進めて参ります。